



平窪の学舎



第33号

東日本大震災からまもなく10年 「命」・「絆」・「希望」

東日本大震災からまもなく10年がたとうとしていた2月13日(土)深夜、福島県沖を震源とする大きな地震がありました。本校児童の家庭には大きな被害はなかったものの、大地震への不安と恐怖を感じた人は少なくないと思います。学校では、児童が一昨年水害に遭っていることも考慮し、災害への心のケアに留意しながら、様子を注意深く見守っています。ご家庭でもお子さんの様子で気になることがありましたら、お知らせください。

今回の地震が来る5日前の2月8日(月)、全校集会(テレビ放送)で、校長から児童に、東日本大震災に関連した話をしました。東日本大震災の時の3人の方の行動等(①防災無線で最期まで避難を呼びかけ続けた女性のこと②がれきの下から数日後に救出されたおばあさんのこと③家が全壊し、身を寄せた親類の家で、両手に大きなペットボトルを持ち水を運び続けた男の子のこと)について触れ、「命(体・心)」・「絆(思いやり・助け合い・感謝)」・「希望(今そして未来へ)」の大切さについて話しました。また、一昨年の水害の際に平窪地区の人々が、そして、平四小の子どもたちが、「がんばり」・「思いやり」・「感謝」を大切にしてみんなで支え合ってきたことについても話しました。人には、忘れてしまいたい記憶もあり、次に生かすべき記憶もあるのではないかと思います。そうした子どもたちの心に丁寧に寄り添いながら、見守り、サポートしていきたいと思っています。

